







受診の前に**必ず**
お読みください

がん検診を受けられる方へ

(がん検診は市町・福井県医師会・福井県健康管理協会が共同して実施しています)

お問合せ先
(公財) 福井県健康管理協会
TEL 0776-98-8000

	胃がん		肺がん	大腸がん	子宮頸がん	乳がん
						
対象年齢 受診間隔	原則として 50歳以上 2年に1回	50歳以上 2年に1回	40歳以上 1年に1回	40歳以上 1年に1回	20歳以上 2年に1回	40歳以上 2年に1回
検診方法	胃X線検査	胃内視鏡検査	胸部X線検査(+喀痰)	便潜血検査(2日法)	子宮頸部細胞診検査	マンモグラフィ検査
	胃を膨らませる薬とバリウム(造影剤)140mlを飲んで、胃のX線写真を撮り、胃の粘膜を観察します。	口あるいは鼻から内視鏡を入れて食道と胃を観察します。がんが疑われる場合には組織を採って検査します。	胸部のX線写真を撮ります。高度の喫煙者(1日の喫煙本数×年数=600以上)では喀痰検査を追加します。 肺がんの予防には、禁煙が極めて重要です!	便に血液が混じっていないかを 2日分の便 で調べる検査です。 専用の採便棒で便の表面を擦って棒の溝が埋まる位の便を採り、①1日目の採便容器は冷蔵庫で保管し、②2日目を採ったら併せて提出します。	子宮の入口を特殊なブラシで擦って細胞を採り、異常な細胞がないか顕微鏡で確認します。	乳房を撮影台と板の間に挟み、乳房のX線写真を撮ります。
備考	放射線被ばくの影響はほとんどありません。		放射線被ばくの影響はほとんどありません。	室温に放置すると便中の血液が消失します。	子宮頸がんは性交渉により感染するヒトパピローマウイルスが原因です。→性交渉の経験のない方は検診対象となりません。	放射線被ばくの影響はほとんどありません。
精密検査	胃内視鏡検査、必要に応じて組織検査		胸部CT検査	大腸内視鏡検査	腔拡大鏡検査+組織検査	マンモグラフィ+超音波検査+細胞の検査
死亡順位(2020年)	男:2位、女:5位 (男女合計死亡3位)		男:1位、女:2位 (男女合計死亡1位)	男:3位、女:1位 (男女合計死亡2位)	13位 (20代30代の罹患1位)	女:4位 (罹患1位)

がん検診には、がん死亡のリスクを減らす**利益**がある一方で、放射線被ばく、検診に伴う事故、がんと正しく診断できないなど**不利益**もあります。

大事なことは ①自覚症状がある場合には、がん検診ではなく医療機関で検査を受けること

②がん検診は、決められた間隔で定期的に受けること

③要精密検査になったら、必ず精密検査を受けること

④検診後に腹痛などの自覚症状が出た場合には、かかりつけ医(もしくは当協会)に相談すること です。

検診結果等のデータは市町や受診機関等へ報告されますが、皆様の個人情報情報は完全に守られます。